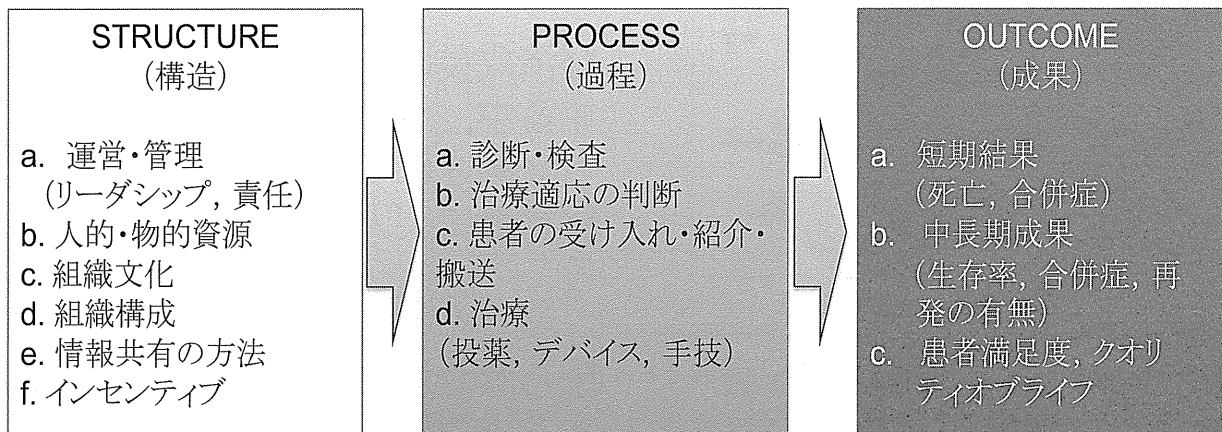


3. 政策・取り組みの継続的な改善



国際的な観点からも日本の達成した公平性は意義のあるものであるが、医療の質を検討する上では、**患者・市民の視点に立った成果**を中心にプロセスや構造に関する評価を体系的に行う必要がある。



評価の対象と評価手法



評価の対象と評価手法

1. 理論(セオリー)評価

原因と結果の連鎖関係を明らかにするのがセオリー評価である
セオリー評価では最終成果物としてロジックモデルを作成する

2. 実施過程(プロセス)評価

3. 改善効果(インパクト)評価

4. コスト・パフォーマンス評価

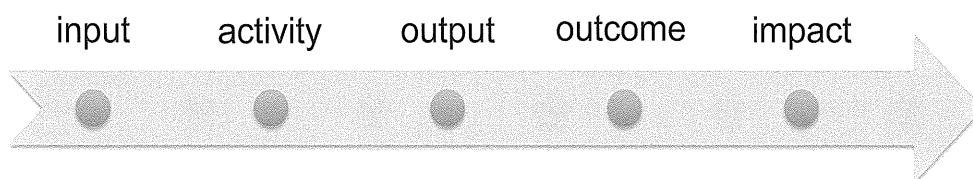


ロジック・モデル

原因と結果の連鎖関係を明らかにしたもの

プロセス評価, インパクト評価, コスト・パフォーマンス評価の各評価でも使用する評価の基盤となるもの

政策立案者, 政策実施者, その他関係者, 納税者の皆で共有できるもの



ロジック・モデルの例

目的：医療機関に関する診療実績の情報公開
(厚生労働省を主体として想定した場合)

投入

- ・ 情報センターの設置(データベースシステム設計)
- ・ データ収集のサポート体制の整備、データ管理・分析担当者)

活動

- ・ 医療法において公開義務となる診療実績の情報の定義を修正
- ・ 設置した情報センターが収集した診療実績情報を都道府県に報告

結果

- ・ ホームページなどを通じて医療機関の診療実績を公開
- ・ 公開された情報に基づいて医療機関を選択

成果

- ・ 納得がいく医療機関を選択することによる満足度の向上
- ・ ユーザー選択の影響による日本全体の医療の質向上



活動の結果の同定

- 活動の結果が意図された対象者に利用されるまでの流れを示す部分.
- 結果outputsと「成果outcomes」は異なることを意識する必要がある
- 民間企業では結果は生産物(生産結果)が、ターゲットである顧客に利用される(利用結果)までの販売過程にあたる.

input activity output outcome impact



例：情報公開における結果の流れ

生産結果

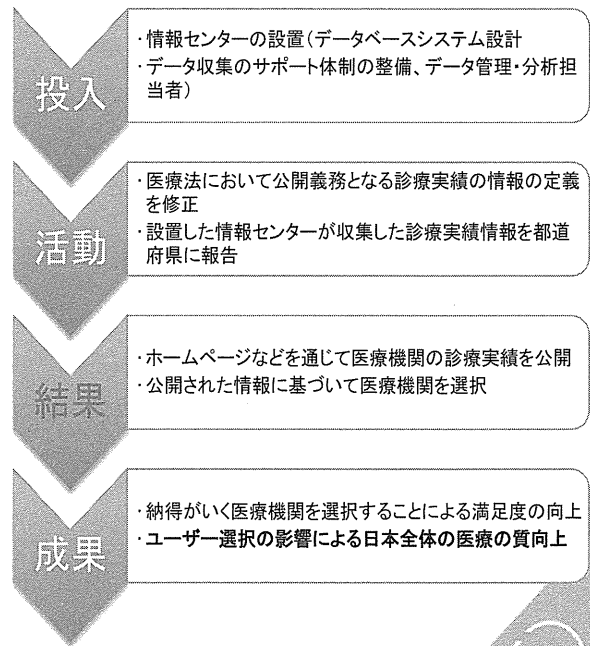
都道府県がホームページなどを通じて、医療機関の手術成績ごとのアウトカム情報を公開。

→利用結果1

公開された情報に基づいて患者側が医療機関を選択

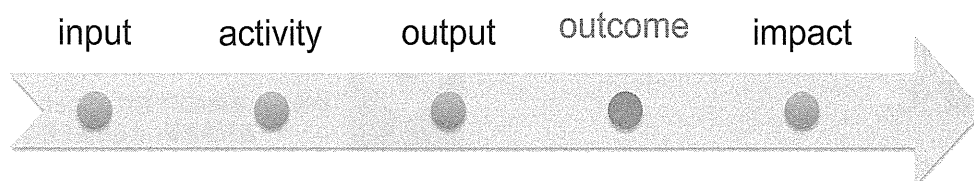
→利用結果2

公開された情報に基づいて、内科医が手術を推奨する施設の紹介基準を変更



政策における成果

- 結果は意図された人々が意図されたサービスを受け取ることであり、成果はそれによってある社会状況が改善することである。
- 成果は数値指標などによって、継続的に把握されることが望ましい。
- 成果は短期・中長期、あるいは直接・間接などに区分される。
- 成果の達成においては期限を意識する必要がある。



例：情報公開における短期の成果

納得がいく医療機関を選ぶ
ことによる患者の満足
(短期)

→患者満足度調査と、そ
れに関連する客観的な
指標の収集

質の高い医療を提供してい
る施設が多くを患者を集
める(中期)

→各病院の症例数の推移,
治療成績の推移.

投入

- ・情報センターの設置(データベースシステム設計)
- ・データ収集のサポート体制の整備、データ管理・分析担
当者)

活動

- ・医療法において公開義務となる診療実績の情報の定義
を修正
- ・設置した情報センターが収集した診療実績情報を都道
府県に報告

結果

- ・ホームページなどを通じて医療機関の診療実績を公開
- ・公開された情報に基づいて医療機関を選択

成果

- ・納得がいく医療機関を選択することによる満足度の向上
- ・ユーザー選択の影響による日本全体の医療の質向上



例：情報公開における中長期の成果

患者の選択が主導する医療機関
の集約化(中長期)
→施設数の推移, 領域ごとの
医療費の検討.

市場原理による全体の医療の
質の向上(中長期)

→ 全体の治療成績の平均値
の変化, 治療成績のバラツキ
の変化.

投入

- ・情報センターの設置(データベースシステム設計)
- ・データ収集のサポート体制の整備、データ管理・分析担
当者)

活動

- ・医療法において公開義務となる診療実績の情報の定義
を修正
- ・設置した情報センターが収集した診療実績情報を都道
府県に報告

結果

- ・ホームページなどを通じて医療機関の診療実績を公開
- ・公開された情報に基づいて医療機関を選択

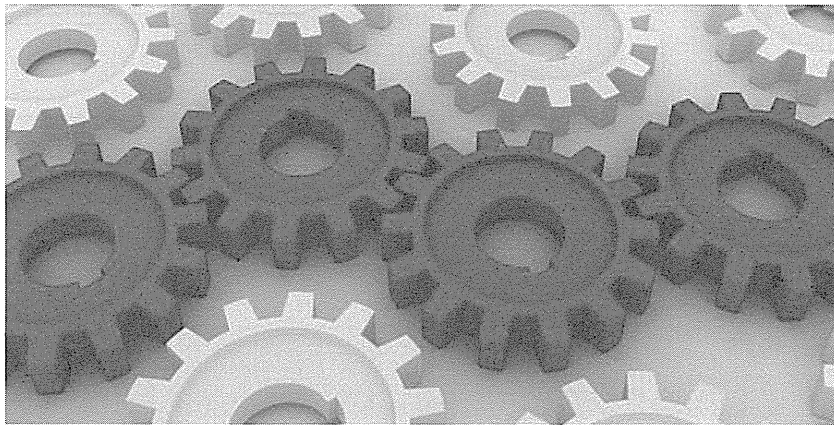
成果

- ・納得がいく医療機関を選択することによる満足度の向上
- ・ユーザー選択の影響による日本全体の医療の質向上



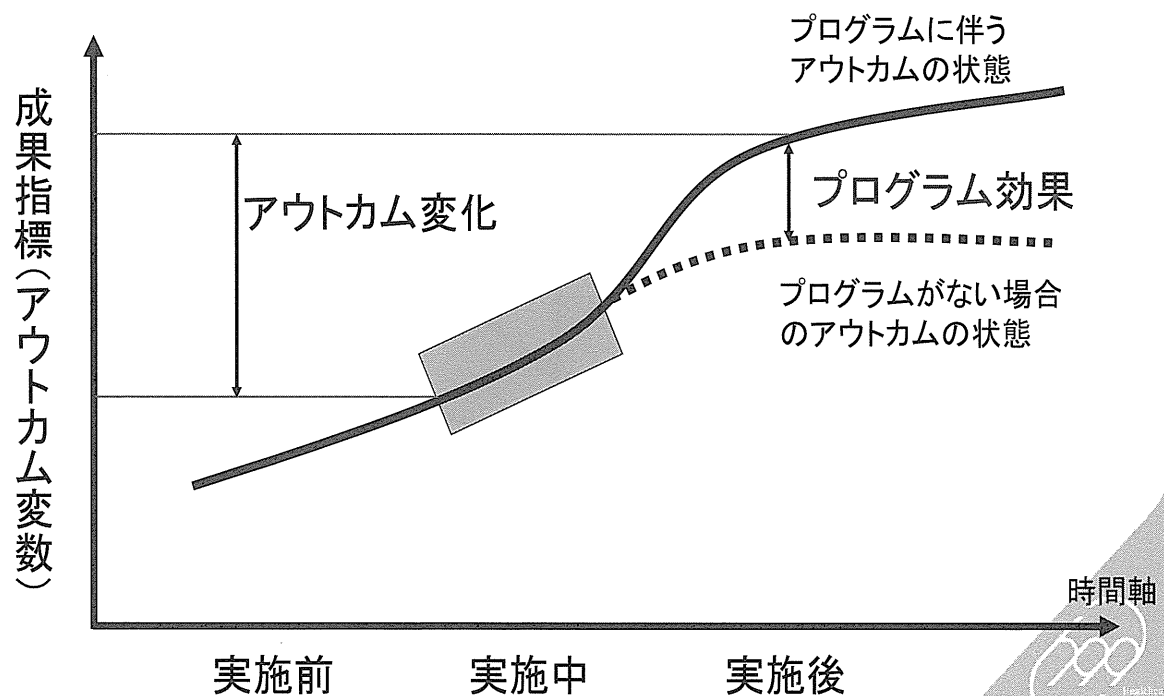
プロセス評価

- ▶ プログラムがどの程度当初のデザインどおりに実施されているか
- ▶ プログラムの実施によって計画された質と量のサービスがどの程度提供されているか
- ▶ プログラムの実施により引きこされるはずの「成果」に関する指標を続け続けること



インパクト評価

実施された政策によって、対象への改善効果の有無、程度を明らかにするもの



インパクト評価における証拠(エビデンス)の重要度

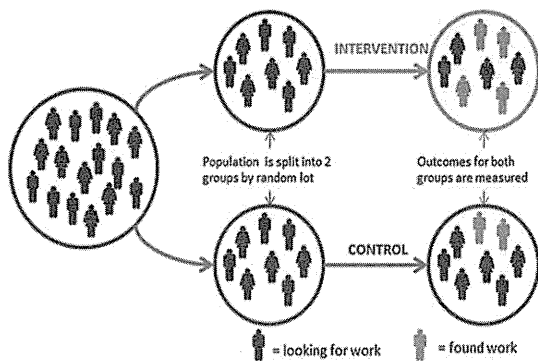


Figure 1. The basic design of a randomised controlled trial (RCT), illustrated with a test of a new 'back to work' programme.

実験モデルがインパクト評価の最適選択
肢であり、研究デザインの基礎

対象者をランダム・アサインメント(無作為
割り付け)により介入群と対照群に分
割

I a システマティックレビュー、メタアナリシ
ス

I b ランダム化比較試験

II a 非ランダム化比較試験

II b その他の準実験的研究

III 非実験的記述的研究
(比較研究・相関研究・症例対照研究など)

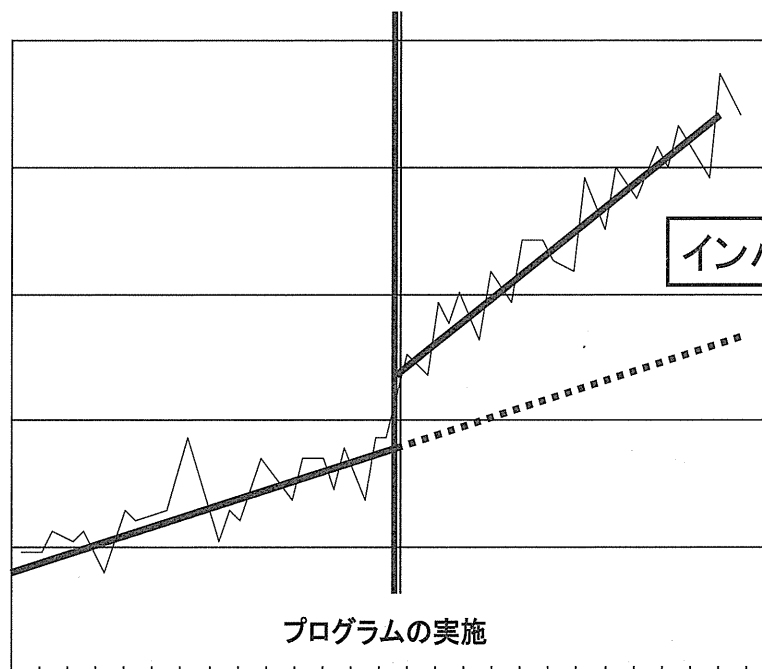
IV 専門科委員会や権威者の意見



医療政策においては、ランダム化はおろか、対照群を設定することも
困難な状況が多い

→全国代表値との対比、前後比較などを利用してインパクトを検討

成果指標値



時間軸



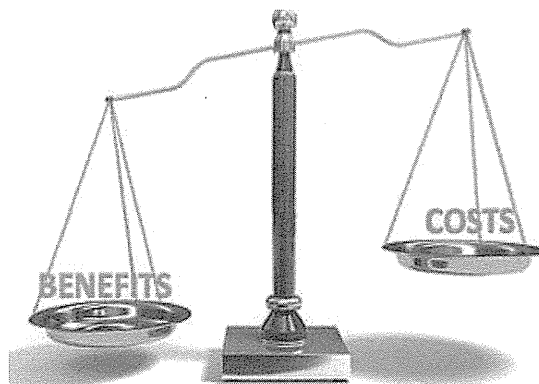
コスト・パフォーマンス評価

$$\boxed{\text{社会便益}} - \boxed{\text{社会費用}} = \boxed{\text{純社会便益}}$$

政策によってもたらされた社会状況のあらゆる変化を貨幣価値に換算した値(社会便益)から

政策実施にかかったあらゆる費用を貨幣価値に換算した値(社会費用)の差を計算し

貨幣価値に換算された純社会便益を求めること



米国の病院におけるコスト分析例

医療の質の向上により合併症率が低下すれば、施設の医療コストも改善する。

	INFECTIOUS	CARDIO-VASCULAR	RESPIRATORY	THROMBO-EMBOLIC
Unadjusted Hospital Costs (95% C1)	\$8,209 (\$5,566-10,853)	\$13,256 (\$6,720-19,799)	\$54,430 (\$51,770-57,091)	\$28,355 (\$22,580-34,130)
Adjusted for Procedure Complexity (95% C1)	\$4,798 (\$4,110-5,486)	\$13,330 (\$11,579-15,082)	\$44,554 (\$43,753-45,356)	\$15,727 (\$14,004-17,450)
Adjusted for Complexity & Patient Characteristics (95% C1)	\$2,207 (\$1,301-3,113)	\$7,519 (\$5,607-9,437)	\$51,409 (\$49,868-52,950)	\$18,341 (\$16,422-20,259)

Dimick JB, Chen SL, Taheri PA, et al. Hospital costs associated with surgical complications: a report from the private-sector NSQIP. J. Am Coll Surgery Oct 2004.



政策評価の概要 I

評価枠組みを検討することの重要性



評価において基本的な概念となるPDCAサイクル

1. Plan(計画)

医療の質の改善計画の設計

- a. 現状の把握
- b. パフォーマンス指標の設計
- c. 活用方法の同定

2. Do(実行)

計画に基づく臨床の実践

- a. 計画による変化の把握
- b. 指標の継続的な評価

3. Check, Study(評価)

改善計画の達成状況の確認

- a. 変化に基づいた影響の把握
- b. 結果の確認

4. Act(改善)

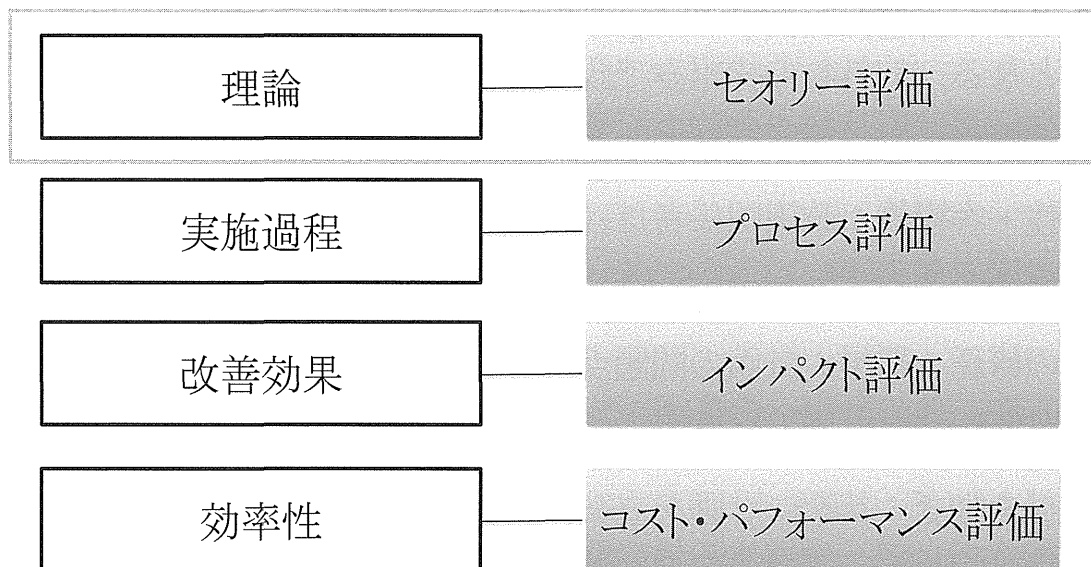
現状に基づく計画の再検討

- a. 計画の修正・破棄
- b. 成功した計画の拡張
- c. 評価体制の見直しと継続性の確保

最も重要なのは改善に取り組む現場が理解納得し、現実の中で取り組みの改善に活用できる情報を継続にフィードバックすること

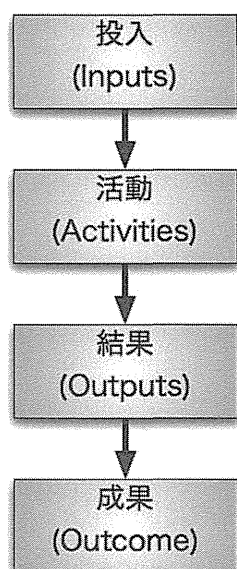


評価の対象と評価手法



セオリー評価：政策の枠組みを検討する

セオリーとは原因と結果が連鎖上に連なる「仮定」である原因と結果の連鎖関係に基づいた政策の枠組みを明らかにするのがセオリー評価であり、ロジックモデル等を作成する



例：再就職支援プログラム

人的・金銭的・時間的資源

再就職支援プログラムの実施

プログラムを〇〇人が修了

- ・就職率が60%から80%に向上
- ・市民の所得水準が向上

